調査研究部年報

昭和42年度

職業訓練大学校
43. 7. 3
図書館

職業訓練大学校調査研究部

目　　次

1. 職　員 …… 1

2. 予　算 …… 1

3. 調査研究部の行なうべき業務 …… 1

4. 昭和４２年度に実施した調査研究事項 …… 2

5. 調査研究部の動向 …… 5

6. 調査研究部員の兼務活動 …… 7

7. 講演発表，印刷出版 …… 7

8. 主なる機器，計測器 …… 9

1. 職　員

調査研究部長	工学博士	宗　像　元　介
主席研究員		古　賀　一　夫
研究員		内　田　悦　弘
研究員		安　江　節　夫
研究員		石　橋　泰　彦
研究員	教育学博士	木　村　力　雄
助手		富　田　康　士
助手		戸　田　勝　也
嘱託		山　県　千　代

2. 予　算

42年度

業務諸費	2,418千円
謝金	737
旅費	381
庁費	1,300
印刷費	744
会議費	121
備品費	435
機器等整備費	2,979
研　究　費	815

3. 調査研究部の行なうべき業務

職業訓練に関する調査研究として，「誰れが」「誰れに」「何を，何う教え」「何う結果を評価するか」の観点に立って，次の事項について行なう。

A－1　職業訓練指導員に関すること

A－2　職業訓練制度に関すること

B　訓練生に関すること

C　職業訓練の方法に関すること

D　訓練効果の評価に関すること

4. 昭和４２年度に実施した調査研究事項

１）総合職業訓練所における高卒訓練生と中卒訓練生の比較　　安江節夫・富田康士

（概要）　高卒者と中卒者との混在の形で訓練を行なっている総訓１０所を対象として調査を行ない，次の点を明らかにした。

イ　高卒者と中卒者の成績水準

ロ　高卒者と中卒者の成績の分散

ハ　高卒者と中卒者の職種別成績

ニ　素質

ホ　高卒者と中卒者の出席状況

ヘ　性行評価と訓練成績との関係

２）技能（普通旋盤作業）の通し評価法　　古賀一夫

―第３報・技能時間の累積分布の型と時間の技能評価―

（概要）　現行の減点式評価法は，課題の難易や採点基準によって評価が変ってくるという矛盾がある。通し評価法は，ある課題で６０点の者は，２級検定課題でも，1級検定課題でも６０点をとり得るという純粋な技能の評価をしようとするものである。従って訓練の過程では，訓練生が実際にどの程度の技能に達したかを，熟練工と対比して位置づけ評価が出来るものである。

４１年度調査研究部報告書７号Ｐ４８に寸法公差内の仕上げどころと仕上げ可能最小公差を報告し，第２報として製作寸法誤差分布の正規性と寸法精度の技能評価について報告してある。

今回の研究は時間的要素を，寸法精度における技能と同様１つの技能として評価する方法を明らかにした。

３）通し評価法による技能評価の一例

―４２年度全国総訓技能競技大会旋盤作業　　古賀一夫

（概要）　４１年度，４２年度の通し評価法の理論構成を実証するための適用研究として実施した。

その結果，現行の減点式評価と0,８９２の高い相関をもって評価し得ることが明らかになった。

また競技大会参加訓練生６０名のうち，二級検定に合格すべきもの１２名，合格の可能性あるもの２４名がいることを指摘し，更に通し評価の結果から，訓練における重点決定のための具体的示唆を明らかにした。

４）ヨーロッパの技能者養成　　内田悦弘

（概要）　海外職業訓練制度研究の一環をなすもので，１９６６，ＩＬＯ発行のEuro－pean Apprentiseship：CIRF Monographs Vol１：No２をほん訳したもの

である

第１部に授業の組織を，第２部に訓練経費を，第３部で要約を，欧州８カ国（オランダ，デンマーク，英国，オーストリア，西独逸，スイス，チェッコスロバキア，フランス）について紹介した。

5）英国の技術教育と産業訓練法　　内田悦弘

（概要）　前記と同じくＩＬＯ：CIRF Abstracts 4, Monographs Vol 1 No 1 のほん訳紹介である。

英国の技術技能養成制度と，産業訓練法の目的とその内容について紹介した。

6）旋削作業における熟練技能の解析　　石橋泰彦

（概要）　職業訓練の方法に関する研究の一環である。旋盤技能訓練において，訓練の重点を明らかにするとともに，訓練生への「カン」どころの伝達を容易にするため，熟練者の「カン」どころを定量的に明らかにしようとするものである。

熟練者と未熟練者の旋削作業をストレンメータ，工具動力計によって解析することとし，現在継続研究中であるが，これまで被験者７名について得た結果から，熟練者の切削における送り動作を定量化することが出来，今後未熟練者との比較において明らかにしていきたい。

7）技能習熟過程に関する研究　　戸田勝也

（概要）　職業訓練の方法に関する研究の一環として行なっているものである．良い作業の遂行には１つの法則性として「習熟」があることを４１年度調査研究部報告書７号Ｐ１９をもって報告した。

今回は，旋削作業における習熟現象を，精度，時間，動作の面から分析して習熟の実態を解明するとともに，習熟に現われる個人差の原因を，適性，興味，意志気質，性格の面から解析することによって，問題傾向者の早期発見と，個人の特性を活かした指導方法設定の示唆を得ようとする。

現在総訓生，事業内訓練生３０名について追跡研究を続行している。

8）職業観の役割に関する考察　　戸田勝也

（概要）　訓練生に関する研究の一環として行なったものである。

総訓生の中には，折角職業人としての志を立てながら，中途退所していく者がある。また訓練を受けようとする気構えに欠ける。こうしたことの原因として何があるかを，態度の面からとらえることとし，訓練生１３０名に対する内省分析，指導員の観察報告の分析によって，訓練生の「職業に対する考え方」「立ち場の認識」の度合が影響していることを明らかにした。

また，この職業観育成の手段として，生活指導上の示唆を得た。

9）「学制」に関する一考察

ー我国において技能尊重の風潮は醸成しうるかー

木　村　力　雄

（概要）

我国の職業教育訓練について考える際に，まず問題となることは，「人が大学に行くから，おれも大学に行く」といった極めて無目的な学校教育万能の風潮であり，又学校教育の中から，職業教育訓練の側面が大きく欠落している事実である。このような我国における特異な現象をその根源にまでつき進んで見定め，更に積極的に技能尊重の風潮を醸成していくためには，まず我国学校教育の性格を明らかにしておく必要があると考える。本研究は，我国近代学校制度の基を築くことになった明治5年の「学制」にまでさかのぼり，我国に学校教育万能の風潮をもたらした近代学校制度の性格を，内外の情勢及びその指導理念にまでつき進み究明しようとしたものである。我々は，この性格究明の中から技能尊重の風潮を醸成していく上での必要な手がかりをつかむことができるように思われるのである。

10）中高年令者の能力に関する電気生理的研究　　安江節夫・戸田勝也

（概要）　年令差というものが，作業遂行上の要因としてどの程度まで関与しているかを実験的に明らかにして，中高年令者の能力特性を求めようとする。

本研究では，筋疲労に重点をおき，既に6名の中高年令者，3名の青年者について，

筋疲労前と後のリアクションタイム比較による瞬間反応，両手共応作業における筋疲労前後の作業時間とエラーの関係

を筋電図によってとらえた。

今後被験者の増加によって，中高年令者の能力特性の傾向を明らかにし，転職訓練の効果的な推進への示唆を得たい。

5. 調査研究部の動向

4月 1 日　職員発令　研究員兼講師　木村力雄

6 日　第1回調査研究部ゼミ

4 2年度調査研究の大綱について

1 1日　附属総訓新入生に対する適性検査器具テスト実施

1 3日　第2回調査研究部ゼミ

部員の研究業務計画説明と検討，労働省の行政調査との調整

1 7日　A・S・T・D（American Society for Training and Development）に調査研究部代表として宗像部長入会

2 2日　A・S・T・D 月例研究会に内田研究員代理出席

2 5日　第3回調査研究部ゼミ

労働省労働基準調査会の調査計画大綱について（調研部長説明）

2 7日　第3回配管作業分析専門委員会

配管作業分析書の修正検討

5月 2 日　第4回調査研究部ゼミ

4 2年度の調査計画の検討

4 日　本部および労働省職業訓練局指導課と4 2年調査研究業務打合せ

1 9日　A・S・T・D 月例研究会　内田研究員出席

2 5日　第4回配管作業分析専門委員会

配管作業分析書修正決定

6月1 3日　第5回調査研究部ゼミ

第3回研究発表会に対する研究部員発表課題の検討

1 3日　「技能と技術」編集小委員会

編集方針に対する下打合せ

1 9日　第7回「技能と技術」編集委員会

2号アンケート結果報告

6号及び4 3年1号の編集について

2 7日　第1回技能習熟性研究委員会

研究目的，方法の審議

委員大久保幸作（富士電機）伊藤光生（富士通）太田能夫（厚木自動車部品）秋庭信夫（労働科学研究所）村中兼松（茨城総訓）波多朝（神奈川総訓）篠崎襄（訓大機械科）　担当戸田部員

2 8日　中高年令者の能力に関する電気生理研究委員会

電気生理実験結果の検討

委員杉本功介（日本女子体育大）佐藤誠（日大）岡村一成（富士短大）駒崎勉（富士短大）

２５日

〃　４３年度調査研究部予算編成

7月８日

２４日　第６回調査研究部ゼミ

第３回研究発表会における部員の発表内容の報告と検討

２８日　第３回研究発表会で研究内容を発表

３１日　第８回「技能と技術」編集委員会

４３年１号の編集について

8月１１日　全国職業訓練指導員懸賞論文募集要綱案作成，本部，労働省と打合せ

２３日　第２回技能習熟性研究委員会

高卒訓練生の技能習熟について

２４日　「技能と技術」誌掲載のため実務実習を了えた訓大塗装科４年生を囲む座談会開催

9月７日　第７回調査研究部ゼミ

高卒，中卒訓練調査の細部打合せ

２１日　第９回「技能と技術」編集委員会

４３年１号の編集内容，２号の編集方針

２２日　全国総訓研修生の各科別懇談会（訓練部主催）に参加

調査研究上のニーズ探求，「技能と技術」誌に対するモニタの件依頼

２８日　埼玉総訓において「技能と技術」誌に対する意見交換会開催

２９日　第８回調査研究部ゼミ

４２年度調査研究報告書の取扱い

１０月５日　第９回調査研究部ゼミ

訓練生理解の１方策　　戸田勝也

中高年令者の社会学的調査案　　富田康士

６日　神奈川総訓において「技能と技術」誌に対する意見交換会開催

２５日　第１０回調査研究部ゼミ

高卒，中卒訓練調査結果について

１１月２日　第１０回「技能と技術」編集委員会

４３年２号編集内容，３号編集方針

１７日　A・S・T・D 月例研究会，内田研究員出席

２２日　第１１回調査研究部ゼミ

高卒，中卒訓練調査結果について

１２月１４日　第１２回調査研究部ゼミ

第４回研究発表課題の検討

１月１１日　第１１回「技能と技術」編集委員会

３号の編集内容，４号の編集方針

２６日　第４回研究発表会で研究内容を発表

２月　６　日　第１回職業訓練談話会発足

メンバ　　宗像，安江，木村，富田，戸田の部員の他，訓練部指導科より手塚講師，勝俣講師　　談話会でとりあげるべき問題点検討

１２日　４３年度附属総訓入所試験として適性検査実施

１３日　同上器具検査実施

１６日　第２回職業訓練談話会

「国際比較からみた日本の職業訓練」（岡本秀昭著：労働問題講座７巻）をめぐる検討

２９日　第３回職業訓練談話会

「職業訓練の問題点」（松本洋著：労働問題講座７巻）をめぐる検討

３月　１　日　「技能と技術」誌掲載のため技能五輪メダリストを囲む座談会開催

6.　調査研究部員の兼務活動

調査研究部長　宗像元介：訓大教授として電気材料の講義担当

研究員　内田悦弘：訓大講師として英語の講義担当

研究員　石橋泰彦：訓大講師として数学Ⅱ演習担当

研究員　木村力雄：訓大講師として職業訓練原理の講義担当

7.　講演発表　印刷出版

イ　講演発表

宗像元介：技能訓練の研究領域の分類

古賀一夫：技能の通し評価法

―時間技能について―

古賀一夫：締付けネジのゆるみについて

内田悦弘：ヨーロッパの技能者養成

安江節夫：高卒者と中卒者の成績の伸び

木村力雄：アメリカ中等教育における教育の発達

富田康士：高卒を入所資格とする事業内訓練の実態分析

戸田勝也：塗装における熟練動作の解析

（以上７月２８日於訓大第３回研究発表会）

戸田勝也：旋盤技能習熟について

（7月17日）於日本心理学会）

古賀一夫：通し評価法による技能評価の一例　－４２年度全国総訓技能競技大会・旋盤作業－

安江節夫：総訓における高卒者，中卒者の成績の伸びについて（２報）

石橋泰彦：旋削作業における熟練の解明

木村力雄：職業訓練原理をどう整えるか

戸田勝也：訓練生の職業観について

（以上４３年１月２６日於訓大第４回研究発表会）

ロ　印刷・出版物

職業訓練に関する調査研究報告書８号：総合職業訓練所における高卒訓練生と中卒訓練生の比較　安江節夫　富田康士

同　上　９号：技能（普通旋盤作業）の通し評価法について－第３報・技能時間の累積分布の型と時間の技能評価－　古賀一夫

同　上　１０号：通し評価法による技能評価の一例－４２年度全国総訓技能競技大会・旋盤作業－古賀一夫

同　上　１１号：ヨーロッパの技能者養成　内田悦弘

同　上　１２号：技能の習熟構造に関する研究　手塚太郎

同　上　１３号：「学制」に関する一考察－我国において技能尊重の風潮は醸成しうるか－　木村力雄

「技能と技術」３／１９６７号Ｐ８１：英国の技術教育と産業訓練法　内田悦弘

同　上　５／１９６７号Ｐ７５：技能の通し評価法　古賀一夫

同　上　２／１９６８号Ｐ４２：ひとりひとりの訓練生を生かす実技訓練の一提案　戸田勝也

作業分析シリーズ　鋳鉄鋳物鋳造作業の仕方

同　形削盤作業の仕方

8. 主なる機機，計測器

年度＼機器	機器	計測器
４２年度整備	旋盤訓練用マシン	切削動力測定装置 クロノスコープ 交流用三相電力記録計 変流器 検流計 携帯用交流電圧電流計 電位差計 ポラロイドランドカメラ
４１年度までに整備済み	精神反射電流測定装置 労働省編第Ⅱ適性検査器 鏡映検査器 共応検査器 旋盤型共応検査器 キネマトメータ フリッカ ＶＴＲ 解析用映写機 １６mm 撮影機 メモモーション装置 クロノサイクルグラフ	ストレンメータ 表面アラサ測定機 小型工具顕微鏡 マイクロメータ（内,外） パッサメータ パッシメータ マイクロメータハイトゲージ テーパゲージ３種 標準ねじゲージ１式

4 2年度発行の職業訓練に関する調査研究報告書

8号	総合職業訓練所における高卒訓練生と中卒訓練生の比較	：安江　節夫・富田　康士
9号	技能（普通旋盤作業）の通し評価法について ── 第3報・技能時間の累積分布の型と時間の技能評価 ──	：古　賀　一　夫
10号	通し評価法による技能評価の一例 ── 4 2年度全国総訓技能競技大会・旋盤作業 ──	：古　賀　一　夫
11号	ヨーロッパの技能者養成	：内　田　悦　弘
12号	技能の習熟構造に関する研究(I)	：手　塚　太　郎
13号	「学制」に関する一考察 ── 技能軽視の風潮は何故生じたか ──	：木　村　力　雄

調査研究部報告書バックナンバー

年　　度	内　　容
37年度　No.1	・中央職業訓練所及び附属総合職業訓練所の訓練生の素質並びに選考方法に関する考察
	・単純反復作業の練習曲線と準備性適時性に関する予備実験の結果報告
	・転職者訓練実態調査結果報告
38年度	・年令と単純反復作業に現われる練習効果の関係
	・旋盤作業及び仕上作業に関する技能訓練効果測定
	・機械工基本実技訓練調査
39年度　No.1	・機械工電機組立工基本実技訓練内容調査
	・技能訓練効果測定（自動車ガソリンエンジン整備、電工配線作業）
	・米ソの新しい職業訓練理念（紹介）
	・米国の人的能力開発訓練法（M．D．T．A）について
39年度　No.2	・技芸、技能的職業の練習開始時期に関する調査
	・中高年令者の雇用並びに労働能力に関する調査
	・技術革新に伴なう技能労働の変化に関する調査
	・技能の習熟に関する研究（その1）　──訓練期間における旋削技能の変化──
40年度　No.1	・全国総訓技能試験に基づく技能度測定
40年度　No.2	・訓大附属総訓修了者の実態調査報告
	・旋盤訓練における技能習熟の過程
	・技術革新に伴なう技能労働の変化に関する調査（2報）
	・熟練技能労働者の就職年令・学歴の調査
	・西独逸の職業教育
	・フランスの職業訓練と技術教育

年　　度	内　　容
41年度　7号	・高等学校卒業を入所資格とする事業内訓練の実態……安江　節夫、富田　康士
	・旋盤訓練における技能習熟の過程について（第2報）……戸　田　勝　也
	・技能（普通旋盤作業）の通し評価法について（第1報）……古　賀　一　夫 —寸法公差内のねらいどころと仕上げ可能な最小公差—
	・技能（普通旋盤作業）の通し評価法について（第2報）……古　賀　一　夫 —製作寸法誤差分布の正規性と寸法精度の技能評価—
	・技能に関する研究についての一考察……石　橋　泰　彦
	・訓練成績と職場適応に関する分析的考察……岡　村　一　成
	・衝動傾向と職業適性に関する一研究……岡　村　一　成
	・英国の技術教育と産業訓練法の特色（紹介）……内　田　悦　弘
	・生産工学におけるサンドウイッチ方式学位コースの未来像（紹介）…内　田　悦　弘
	・英国工科系大学におけるサンドウイッチ方式 デイプロマ・コースの技術教育（紹介）……内　田　悦　弘 —主として英国ノーサムプトン・カレッヂの実情紹介を中心に—
	・スウエーデンにおける職業指導員の訓練について（紹介）……戸　田　勝　也

昭和43年3月25日発行

発行者　職業訓練大学校調査研究部長　宗　像　元　介

職　業　訓　練　大　学　校

東京都小平市小川西町2210

電話　0423(41)3331